

柴犬の原発性緑内障

緑内障の遺伝子検査を行うにあたり、弊社は麻布大学と株式会社メニコンが共同保有する特許「イヌの緑内障を診断する方法及びキット」（特許番号6053681号）の独占実施権を許諾する契約を締結しています。

リスク（低）

弊社が調べている遺伝子変異が原因となる原発性緑内障に関しては、発症する可能性が低いです。

リスク（中）

弊社が調べている遺伝子変異が原因となる原発性緑内障の発症リスクがやや高いです。

状況と症状に応じて獣医師に相談して適切な治療・処置を行ってください。

予後を大きく左右するのは治療開始までの期間と言われているため、定期的な受診をお勧めします。

リスク（高）

弊社が調べている遺伝子変異が原因となる原発性緑内障の発症リスクが高いです。

必ず発症するというものではありませんが発症リスクが高いため、リスク（中）と同様、状況と症状に応じて獣医師に相談して適切な治療・処置を行ってください。

予後を大きく左右するのは治療開始までの期間と言われているため、定期的な受診をお勧めします。

緑内障は2種類の変異を合せて診断するので、劣性遺伝病とは異なるリスク判定になる診断法です。

交配組み合わせについて

● 推奨する組み合わせ	リスク低—リスク低 / リスク低—リスク中
▲ 推奨しないが許容組み合わせ	リスク中—リスク中 / リスク高—リスク低
× 避けるべき組み合わせ	リスク高—リスク高 / リスク高—リスク中

緑内障は痛みを伴う緊急疾患であり、早期発見・早期治療が重要です。
遺伝子検査によるリスク判定により、動物病院で早期発見・早期治療が可能です。

【緑内障の急性期症状】

結膜と上強膜のうっ血、眼瞼痙攣、疼痛、散瞳などが見られます。

1, 2週間この状態を放置すると視覚を消失します。